

令和3年度 産山学園共通実践事項+2

- (1)単元のゴールの姿(単元デザイン)
- (2)導入う(問いやつぶやきを引き出している・子供の言葉でめあてを立てている)
- (3)展開ひ・や(積極的なファシリテート・思考ツールの活用)
- (4)終末ま(子供の言葉を生かしたまとめ・自らの学びや自己の変容がわかる振り返り)
- *効果的な場面で目的に応じたICT機器の活用
- *学習過程が分かるように整理された板書の工夫

校内研通信

No. 8

11月18日(木)
文責: 富永

研究授業大研3(国語科)～真田先生～

11月4日(木)8年生 単元名「言葉とメディア」「正しい」言葉は信じられるか

<校内研の視点での分析>

○仮説1について

- ◆教師側が、あえて批判的な立場からの新聞記事の書き換えを示したことで、生徒側は、賞賛的な立場からもっとよりよい記事にしたいという追究欲が生まれ主体的な姿につながっていた。
- ◆生徒の言葉を中心に板書を組み立てたことで、生徒の言葉を生かしたまとめや、他者の考えを受けて自己の変容がわかり、次時へとつながるような振り返りの場となっていた。

○仮説2について

- ◆生徒の発言を価値付けたり、まわりの生徒へと広げたりしたことで、対話が充実し、考えを深めようとする姿があった。
- ◆ノートPC上(スクイメニューの活用)で書き換えたものを生徒同士のグループワークで表現し合ったり、全体の発表で自分の考えと比較できたりしたことで、記事をよりよくしようとする姿があった。

<まとめ>

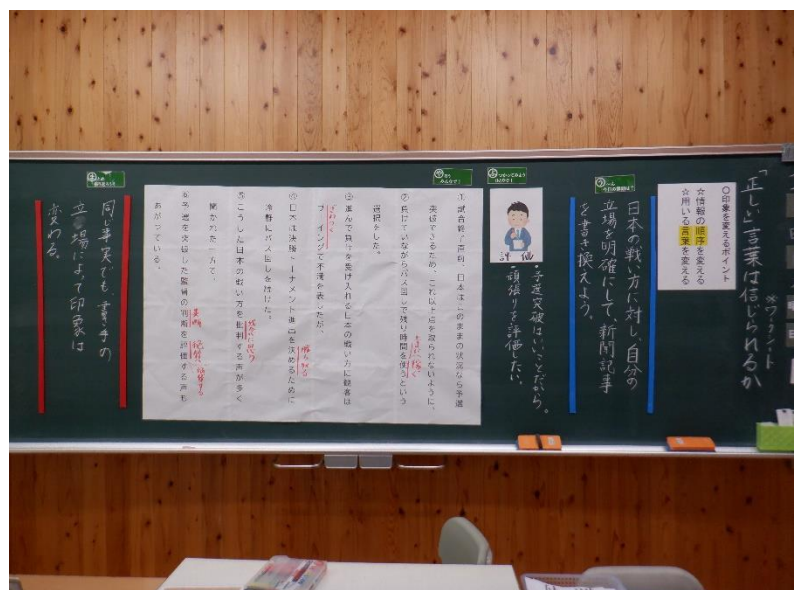
今回、くまもとGIGAスクールプロジェクトモデル地域としての実践ということもあり、ICT機器を活用に重きをおいた実践となりました。しかし、ICT機器を使うことが目的の授業ではなく、国語科の視点からの分析もされた上で、生徒にとって学びがよりよいものになるためのICT機器を活用した実践だったと思います。これからますます活用の幅が広がってくると思いますが、やはり大切なのは、今回の実践のように「何のために使うのか」という「目的」だと思います。子供側(実態)から単元を構想し、どの時間でどのように使うと子供にとってよりよい学びとなるかを私たち一人一人が考えて効果的に使っていくことで、子供たちの主体的な姿や対話をする姿、考えを深める姿へとつなげていきましょう。

【自評】

今回、生徒が書き換えをする場面、考えを共有する場面、振り返りの場面等でICT機器を使用しました。

従来の授業では、紙(ワークシート)に書き換えをし、口頭で発表し合うことが多かったのですが、ICT機器の活用により、スムーズな書き換えや、生徒が一目で読める共有もできました。

今後も、効果的な場面で目的に応じたICT機器の活用を授業に取り入れていきたいです。



○User Local～AIテキストマイニング～について (マイクロソフトフォームズでも可)

- ①上記を検索→②次の画面が出てきますので、左上の新規作成をクリック
- ③フォームを入力（コピー→貼り付けもしくは、ファイルのアップロードでもOK）
- ④テキストマイニングをクリック

Word Cloud: ビジョン, 感じる, 見つけ出す, 取り組む, アド, 決める, 課題解決, ヘルパー, 産山村, 出し合う, 協力, 7年生, 感染拡大, 新型コロナウイルス, 社会福祉, 活動, 考える, など

Network Diagram: 産山村, 出し合う, 協力, 7年生, 感染拡大, 新型コロナウイルス, 社会福祉, 活動, 考える, など

2次元マップ: 産山村, 出し合う, 協力, 7年生, 感染拡大, 新型コロナウイルス, 社会福祉, 活動, 考える, など

＊ワードクラウドだけでなく、共起キーワードや2次元マップも表示されるため、様々な教科や場面で使用可能だと思います。

注）共起とは・・・共起とは、一文（改行や「。」などで区切られた各文）の中に、単語のセットが同時に出現するという意味です。共起回数は、一緒に出現した回数を指します。

○タイピングソフトについて（キーボー島アドベンチャー）

- ①上記を検索→②次の画面が出てきますので、体験をクリック
- ③すると、次の画面が出てきますので、体験をクリック
- ④すると、次の画面が出てきますので、トレーニングをするをクリック
- ⑤すると、次の画面が出てきますので、一文字ずつ入力 or 単語の入力をクリック
- ⑥あとは、各自の実態に応じてステージを選択すると開始されます

Stage ②: キーボー島アドベンチャー

Stage ③: キーボー島アドベンチャー

Stage ④: キーボー島アドベンチャー

Stage ⑤: トレーニングメニュー

＊各自の実態に応じてステージを選択して進められる上に、1つのステージごとになっているので、時間もあまりかからず、楽しく進められてタイピング力もつけられると思います。

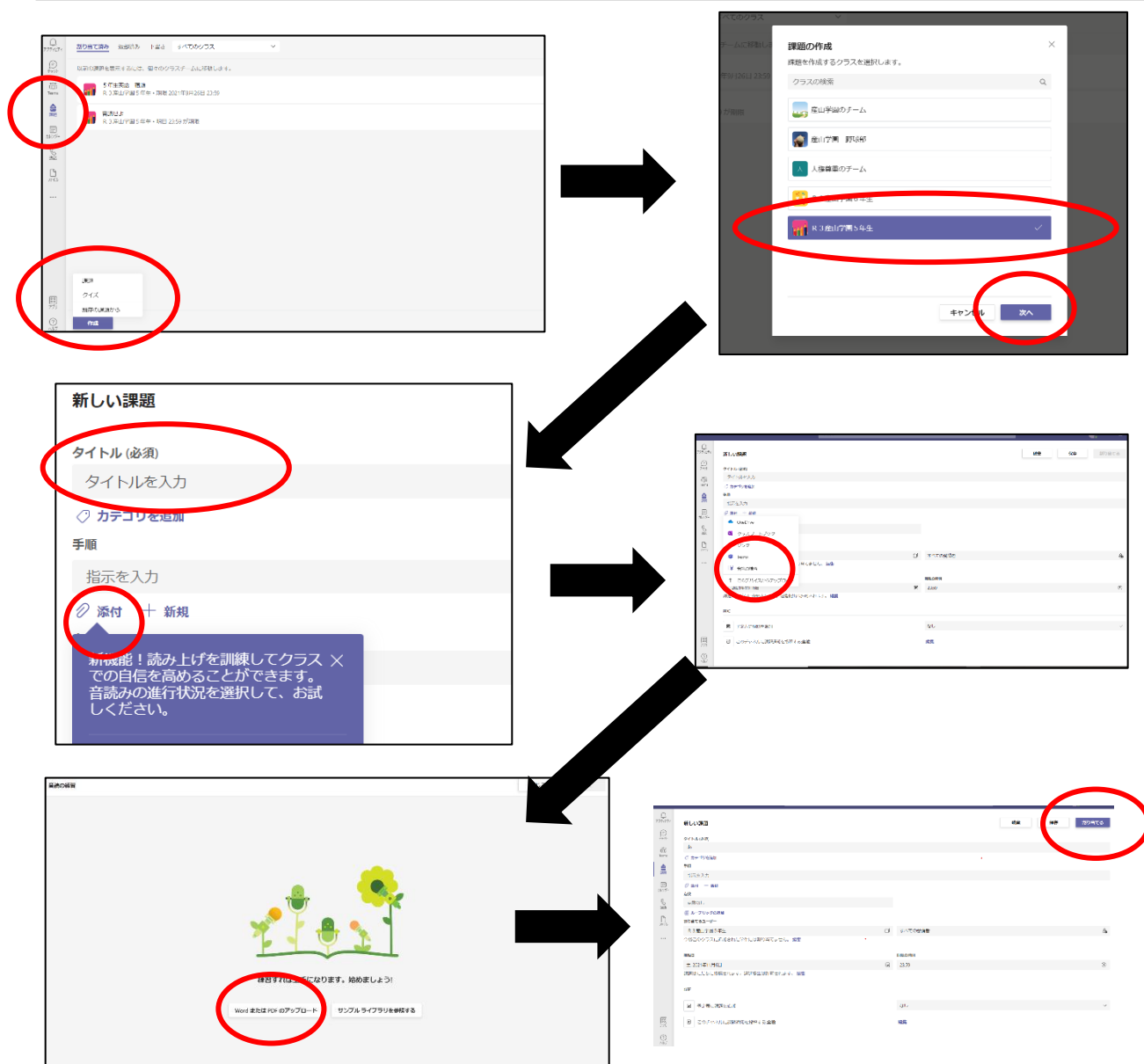
OT eamsについて（音読練習等で活用可能）

①課題をクリック ②左下の作成をクリック→課題をクリック

③課題を作成するクラスを選択→次へをクリック ④一番上のタイトルを記入後、添付をクリックする→音読の練習をクリック ⑤ワードまたはPDFのアップロード

⑥データを選択し、右上の次へをクリック ⑦割り当てるをクリック

* ノートパソコンを持ち帰っての音読練習ができるだけでなく、英語の発音の場合は、発音の正確率まででするので、場面に応じた活用ができると思います。また、フィードバックも可能です。



発音の正確率が
でています。

フィードバック
も可能です。

